マンスリー・ハイライト　拝啓社長殿

マネジメントのための経営財務情報

今回のテーマ：　SDGs 経営は企業価値向上の救世主か

SDGs を経営に取り込む積極的な姿勢が ESG 投資を呼び込み、外部評価につながる時代、注目度は増すばかりです。一方、バッジをつけているだけで一体何が進んでいるのか？と揶揄されることが多いのも事実です。SDGs にメリットはあるのか、企業価値は向上するのか、半信半疑になるのも頷けます。SDGs 経営は果たして経営者にとって強い味方なのでしょうか。

SDGs 経営と日本企業の商機

SDGs の 17 の目標や 169 のターゲットは裏返せば、社会課題が山積している証です。未解決課題にはビジネスチャンスが存在し、潜在市場の発見と社会課題解決がもたらす大きな成果は企業価値向上の実現に繋がります。理想とする企業の姿が SDGs 経営の未来にあるなら挑まない手はありません。

『三方よし』の精神に代表される「会社は社会のためにある」という日本企業の商慣習や考え方は SDGs との親和性が高いとされています(経済産業省「SDGs 経営ガイド(2019 年 5 月)」)。多くの日本企業にとって SDGs 経営は、これまで当たり前に実践してきたことの延長線上にある商機です。

SDGs 経営実践の有用性

「SDGs 経営ガイド」には、企業の取り組み事例を交えながら、SDGs 経営を実践する際の有用な視点が整理されています。課題解決に焦点を当てる SDGs 経営のアプローチとビジネスとの両立、SDGs の目標と自社の本業との関連性を活かして SDGs に貢献するための視点などを知ることが可能です。

経営者が、イノベーションの創出者として自ら新規事業をリードしながら、理念や仕組みの浸透による持続可能な経営の実現を図り、ステークホルダーへの的確な発信と対話を通じて企業価値向上を果たすための経営的視点が盛り込まれており、SDGs 経営が新時代を支える予感を抱かせます。

SDGs 経営のメリット～『投資』『人材』『顧客』の視点～

3 つのステークホルダーの視点から、SDGs 経営を積極的に取り込むメリットは大きいといえます。

『投資』の視点

環境・社会・企業統治への責任を重視して投資対象を選ぶ ESG 投資は、SDGs 経営の達成度を評価する非財務情報重視の姿勢を鮮明にしています。ESG を推進する国連投資責任原則(PRI)の 86.3 兆ドルに膨らむ運用規模(2019 年 3 月時点)が、SDGs 経営への取組姿勢で投資選別され、SDGs 経営に積極的に取り組む企業に追い風となることを何より物語っています。

『人材』の視点

2000 年代初頭に成人・社会人となるミレニアル世代を対象にした調査で「企業が達成すべきこと」の上位に「地域社会の改善(39%)」「環境の改善と保護(33%)」(「SDGs 経営ガイド」)が入るなど、ミレニアル世代の価値観が企業の選好と企業側の人事戦略に影響する時代です。人材獲得と雇用維持の観点から、人口減少下の人材獲得競争の成否は、SDGs 経営の取組姿勢にかかっています。

『顧客』の視点

消費者が SDGs の視点を持って企業を評価する姿勢が徐々に強まっていく中、SDGs 経営を通じていかに消費者を惹きつけ、企業ブランディングに繋げていくかが今後の企業経営のカギを握ります。

お見逃しなく！

2020 年 3 月期の有価証券報告書より「記述情報の開示に関する原則(金融庁 2019 年 3 月 19 日)」を踏まえた記述情報の充実が適用されます。非財務情報の積極的な開示が期待される中、SDGs 経営の視点を踏まえた経営者の考え方が今後より重視されることになります。

© Grant Thornton Japan All rights reserved.